

温 泉 分 析 書

環 科 研 函 温 0 7 7 号									
1 申 請 者	札幌市東区北41条東3丁目3番1号 株式会社プロット 代表取締役 三浦 美彦								
2 源泉名および湧出地	亀田 温泉 (源泉名: 湯都里の湯) 函館市昭和3丁目330番10								
3 湧出地における調査および試験成績									
(イ) 調査および試験者	株式会社 環境科学研究所 寒河江 直樹								
(ロ) 調査および試験年月日	平成25年6月20日								
(ハ) 泉 温	69.7℃ (気温: 22.6℃) (ニ) 湧 出 量 : 546 ℓ / min (動力揚湯)								
(ホ) 知 覚 的 試 験	無色澄明、弱カン味、弱硫黄臭								
(ヘ) p H 値	6.8 (ト) ラドン (Rn) :								
4 試験室における試験成績									
(イ) 試 験 者	株式会社 環境科学研究所 小刀祐 康								
(ロ) 分析終了の年月日	平成25年7月10日								
(ハ) 知 覚 的 試 験	弱茶褐色微濁、弱カン味、弱硫黄臭 (採水後4時間)								
(ニ) 密 度	1.0048 (20° / 4℃)								
(ホ) p H 値	6.63								
(ヘ) 蒸 発 残 留 物	8.161 g / kg (180℃)								
5 試料 1 kg 中の成分: 分量及び組成									
(イ) 陽 イ オ ン	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)	(ロ) 陰 イ オ ン	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)		
水素イオン	H ⁺			フッ素イオン	F ⁻	2.2	0.12	0.09	
ナトリウムイオン	Na ⁺	1963.	85.39	64.25	塩素イオン	Cl ⁻	3795.	107.0	77.42
カリウムイオン	K ⁺	125.4	3.21	2.42	水酸イオン	OH ⁻			
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	1.0	0.06	0.05	硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00	0.00
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	165.0	13.58	10.22	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	0.0	0.00	0.00
カルシウムイオン	Ca ²⁺	607.5	30.31	22.81	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	783.2	16.31	11.80
アルミニウムイオン	Al ³⁺				炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	898.8	14.73	10.66
マンガンイオン	Mn ²⁺	0.1	0.00	0.00	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	1.1	0.04	0.03
第一鉄イオン	Fe ²⁺	9.8	0.35	0.26	リン酸イオン	HPO ₃ ²⁻	0.2	0.00	0.00
第二鉄イオン	Fe ³⁺	0.6	0.03	0.02					
計		2872.	132.9	100.	計		5481.	138.2	100.
(ハ) 遊 離 成 分									
非 解 離 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非 解 離 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)				
メタ珪酸	H ₂ SiO ₃	74.2	0.95	メタ亜ヒ酸	HAso ₂	0.1	0.00		
メタ硼酸	HBO ₂	24.2	0.55						
計		98.5	1.50						
溶 存 物 質 (ガ ス 性 の も の を 除 く)		8.451 g / kg							
溶 存 ガ ス 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)							
遊離二酸化炭素	CO ₂	309.2	7.03						
遊離硫化水素	H ₂ S	0.0	0.00						
計		309.2	7.03						
成 分 総 計		8.761 g / kg							
(二) その他微量成分	アルミニウム: 0.008 mg/kg、亜鉛: 0.027 mg/kg								
	カドミウム、鉛、総水銀、銅: 検出せず								
6 泉 質	ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉 (中性等張性高温泉)								
7 禁忌症、適応症	「温泉分析書別表」中5に記載する。								
平成25年7月11日	登録分析機関 登録番号 北海道第5号 株式会社 環境科学研究所								

温 泉 分 析 書 別 表

1	源 泉 名	湯 都 里 の 湯
2	湧 出 地	北海道函館市昭和3丁目330番10
3	温泉分析申請者	札幌市東区北41条東3丁目3番1号 株式会社プロット 代表取締役 三浦 美彦
4	泉 質	ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉 (中性等張性高温泉) (旧泉質名：含塩化土類-食塩泉)
5	療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。	
浴	禁 忌 症	急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）。
用	適 応 症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、疲労回復、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、健康増進、虚弱児童、慢性皮膚病、慢性婦人病、きりきず、やけど。
飲	禁 忌 症	腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
用	適 応 症	慢性消化器病、慢性便秘。
浴用、飲用の 一般的注意事項	<p>1 入浴の方法及び注意</p> <p>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</p> <p>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(3) 入浴中は運動浴の場合は別にして、一般には安静を守ること。</p> <p>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</p> <p>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴（42℃以上）を禁忌とする。</p> <p>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</p> <p>(7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</p> <p>(9) その他</p> <p>2 飲用の方法及び注意</p> <p>(1) 飲用の1回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> <p style="padding-left: 20px;">大人一人一日の飲用量は720ml以内とすること（フッ素含有）。</p> <p style="padding-left: 20px;">15歳以下のものについては、知見が必ずしも十分でないため、原則的には飲用を避けること。</p> <p style="padding-left: 20px;">ただし、例外的に飲用する場合には、医師の指導を受けること。</p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p> <p>(注) この別表は、温泉法第14条による掲示に必要な参考資料となるものである。</p>	
平成 25 年 7 月 17 日		決定者 北海道立衛生研究所長

